

留学生レポート

# 日本から一步外へ

学校教育教員養成課程  
言語・社会コース 4 回生  
(奈良県立登美ヶ丘高校出身)



山地 心  
from Korea

英語主体の韓国生活

僕は、2008年の9月から2009年の6月までの約10ヶ月間、交換留学生として韓国に留学していました。韓国へは、韓国語を習得するためと、外から日本を見るためという目的を持って行きました。英語とは違って韓国語にはまったく馴染みがなく、留学初日に寮へ到着した時、部屋の扉が開けられない、灯りがどれかわからない、洗濯機が使えないなど、最低限の生活をすることすらままならない状態でした。初めてのルームメイトはアメリカ人になり、基本的なコミュニケーションはすべて英語でした。韓国語を学習するために来たのに、受ける授業はほとんどが英語で行われ、楽しみにしていた韓国語を学ぶ授業でさえ、ほとんどが英語で進んでいきました。自分で韓国語を勉強しても、実際に聞いたり話したりする機会がなかなか作れず、また、英語の能力も未熟だったので、ほかの交換留学生ともうまくコミュニケーションがと

言葉は手段

このままではダメだと思い、思い切った勉強の方向を変え、英語の勉強を増やしました。韓国では、日本よりも英語の能力が問われる機会が多いので、ほとんどの学生が英語の勉強に力を入れています。英語が話せれば留学生とも話ができて、さらには韓国人とも知り合いになれると考えました。最初の半年は、ほとんどの時間を英語の勉強に費やし、友達を増やすこと、たくさんの人と話をすることを心掛けました。韓国での生活を始めてからずっと勉強を続けていた成果が、春になってやっと実を結び始めた。留学が終わる頃には、ほとんどすべての人と英語と韓国語で話ができるようになっていました。話せるようになってから、ますます友達が増え、たくさんの友達といろんな話をしました。韓国から見た日本とはどんなものか、韓国の学生は何を思っているのか、といった、日本には知り得ないことをたくさん知りました。言語はあくまでも道具であり、手段です。僕が留学生で学んだことは、この道具の基本的な使い方と、それを使った時の面白さと、道具をうまく使えた時の忘れられない感動です。



留学生フィールドトリップ（浦項にて）

れず、一人で勉強ばかりしていました。

## 男子ソフトボール部

### 後悔だけはしない



総合教育課程 文化財・書道芸術コース 2 回生  
主将 小島 和人  
(京都府立西舞鶴高校出身)

私たちソフトボール部は、一回生6人、二回生7人、四回生4人、マネージャー7人で、月・火・木の週3回活動しています。公式戦は、春リーグと秋リーグの年2回のみですが、現在秋リーグに向けて他大学との練習試合を行い、チームの改善点など見つけて練習メニューを変え、弱点を克服しつつ、チームのレベルアップをめざしております。

今年の春リーグでは、全敗してしまふという屈辱的な結果となりました。しかし、一回生も加入してチームにとって大きな力となり、練習試合では二勝二敗と良い形に仕上がってきています。今年の秋リーグでは、三部から二部への昇格を目標とすると同時に、奈良教育大学ソフトボール部の強さを他大学に知らしめるような気持ちで望んでいきたいと思っています。

ここで受験生に向けてのメッセージというところで、私の受験について話したいと思います。私は、中学から高校一年まではソフトテニス部に所属していましたが、受験との両立ができなくて途中で退部し、高校二年から本格的に受験勉強に取り組みました。その高校二年の夏、塾の先生のひとりに私は



チームの仲間

とても感動しました。「自分の人生は一度きり、だから後悔だけは残してはいけない」人を教える立場になればよく話される教訓ではありますが、夏休みに勉強ばかりで「つらいな、しんどいな」と心が折れそうな時にこの言葉を聞いて、私は心の悩みを振り切ることができました。その後も苦難はありましたが、そういう時はこの言葉を思い出して、受験勉強を乗り切りました。私は部活でも、「後悔だけはしない」という言葉を野球帽の下に書き、落ち込みそうな時はそれを見て頑張っています。

## 課外活動

## 舞台工房 KATE

### 意志が舞台を創る



学校教育教員養成課程 身体・表現コース 2 回生  
部長 神木 千聡  
(奈良県立高円高校出身)

舞台工房 KATE は、劇団キラキラ座と共に、奈良教育大学の二大演劇系サークルとして活動しています。私たち KATE の活動をひとりで表すと、「やりたい人がやりたいことをやりたいようにやる」です。その言葉通り、KATE はサークルとしての明確な枠組みを作っておらず、一度だけでも KATE の出す企画に参加したり協力したりしたら、その時点で KATE メンバーと名乗ることができるといった、オープンで自由なやり方で活動しています。

舞台工房 KATE の最大の強みは、「こんなことがしたい」と誰かが強い意志を発したら、必ず誰かの賛同や協力がいつの間にか出てくることです。自由なやり方というのは、手探りのやり方でもありますが、メンバーと衝突しながらも協力し合って、企画を成功させた時の達成感と感動はひとおです。

メンバー間には先輩・後輩に関係なく、自分たちの出せる力を出し合える関係を目指しつつも、アットホームな雰囲気の中で活動しています。OB・OG の先輩方がやってくることもあ



平成 21 年度 4 回生卒業公演『TABOO』

り、いろんな人と交流することができ、活動日も、KATE で打ち立てた企画のメンバーでスケジュールを調整して決めていくため、自分たちのペースで活動できます。

「舞台工房」という名前の通り、演劇に限らず舞台でやる発表という形の活動ならば、KATE は何でもやっていこうと思っています。

本当に必要なのは、やってみようという「意志」だけです。舞台工房 KATE で、表現することの面白さを感じてみてください!!

留学生レポート

# 初体験！日本の生活

研究生 (西安外国語大学)

孙 文俏

from China



春爛漫の4月、交換留学生として奈良教育大学で一年間勉強する機会に恵まれました。日本での生活はたった数ヶ月ですが、この間に経験した驚きや感動の数々は、一生忘れられない思い出になるでしょう。

■驚きの連続

まず、日本に来た当初は驚きの連続でした。最初に驚いたのは、日本では新鮮さが大切にされていることでした。新しいものは値段が高く、生鮮食品は夕方6時頃を過ぎると元の値段から値引きされ、半額になることも珍しくありません。そして、日本にはカラスがたくさんいることにもびっくりしました。特に燃えるごみを出す日が来ると、たくさんのカラスが町の中に集まってくる。不思議に思ったことは、人が近づいても逃げないこと、それどころか、私たちがカラスに観察されている気がしました。ごみと言え、ごみ処理に対して驚いたこともあります。中国ではごみ捨ての日が決まっています。



寮の前にて、管理人さんと

化していくか、楽しみです。これからも日本についてもっと勉強を重ね、さまざまな体験をしていきたいと思っています。

決まっていませんが、日本では、燃えるごみと燃えないごみを出す日が決まっているそうです。中国もそうならいいなと思います。

時間が経つと、最初は驚き続きの生活も、次第に日本の良さが見えてくるようになります。一番良いところはやさしさがあふれているところです。

■優しさに感謝

私が住んでいる寮の管理人さんは、初めて日本に来て不安だらけの私に、いつも親切に声をかけてくれました。また、学校が開催してくれた多種多様な活動のおかげで、見学旅行や能の鑑賞のような素晴らしい体験もできました。またバイト先を探していたところ、近くのスーパーの店長さんが、外国人である私をこころよく採用してくれました。時々日本語の意味がわからなくて困っている私に、辛抱強く丁寧に説明してくれました。

日本での生活が長くなるにつれ、最初のような新鮮味や好奇心、驚きなどがだんだん少なくなってきました。周りの人たちのやさしさのおかげで、ホームシックになることもなく、自分が外国にいるという感覚も薄れつつあります。留学を終える頃までに、日本への思いがさらにどのように変化していくか、楽しみです。